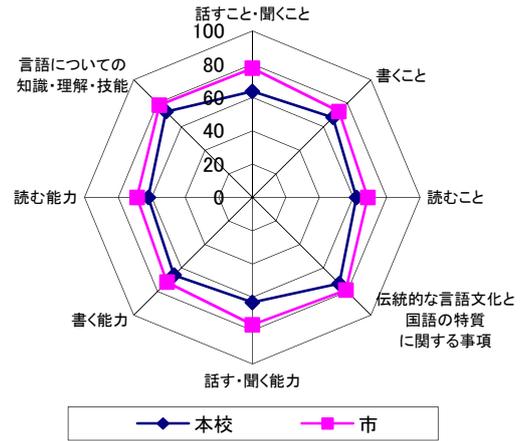


宇都宮市立上河内中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	63.6	77.6	76.3
	書くこと	67.9	73.0	56.1
	読むこと	62.1	68.8	63.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.2	78.8	71.6
観点別	話す・聞く能力	63.1	76.5	75.4
	書く能力	66.0	72.0	58.1
	読む能力	62.1	68.8	63.9
	言語についての知識・理解・技能	72.8	78.4	70.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

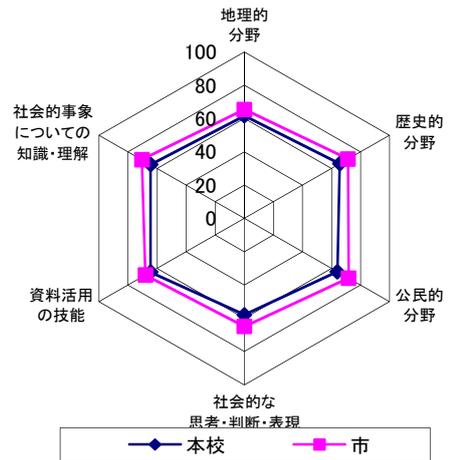
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●全体として、市の正答率77.6に対して14ポイント下回っている。 ●内容を詳細にみていくと、「司会者の工夫を聞き取ること」が24.8ポイントを筆頭に、「話の内容を正確に聞くこと」が13.9ポイント、「話し手の意見に対して自分の考えをもち、質問すること」が10.5ポイント、「聞き手に理解してもらうための工夫を聞き取ること」が5.2ポイント下回っており、全体的に【聞く力】が低い。 	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>●「話し合い」や「発表」の単元だけでなく、「小説」や「説明文」などの読解に際しても【話し合い活動】を取り入れ、話し手・聞き手・司会者など、それぞれの立場でどういった工夫をすれば相手に伝わるかを体験するようにしていく。</p> <p>また、【話し合い活動】を振り返り、よい(工夫)点や改善点などを挙げさせ、次回の【話し合い活動】で意識すべきことを確認させ、繰り返し取り組ませる。</p> <p>●国語科の授業以外でも、教師の説明や友達の意見を静かに聞くことの徹底と、メモを取らせる活動に取り組ませる。</p>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●全体として、市の正答率73.0に対して5.1ポイント下回っているが、参考値(全国平均)よりも11.8ポイント上回った。 ●内容を詳細にみていくと、「3段落構成文章を書くことができる」が5.4ポイント、「自分の立場を明確に書くことができる」が5.8ポイント、「自分のとった立場の理由を書くことができる」が5.6ポイント下回っている。 	<p>●出題内容は異なるが、4月に行った全国学力・学習状況調査と比較すると、本校が今年度重点課題として全教科で行っている、話す前の「書く活動」で考えをまとめる取組で、「書くこと」に対する改善が見られた。今後も、現在行っているような「書く」活動を全教科で継続させる。</p> <p>●国語科としては、作品の読解や作文単元を通して、「感想文」「要点・要旨のまとめ」「意見文」「主張文」など様々な文種に取り組んでいるが、今後は、「自分の立場・主張」を明確にして「書く活動」を多く取り入れ、【書く力】の改善・向上をさせる。</p>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●市の正答率62.1に対して6.7ポイント下回っている。 ●内容を詳細に見ていくと、説明文の内容読解では「文章の展開をとらえて、その内容を整理してまとめる」が平均して8.9ポイント、文学作品の内容読解では「登場人物の心情をとらえる」が平均して6.6ポイント下回っている。さらに、文学作品の「表現の特徴をとらえる」は11.9ポイント下回っている。 	<p>●朝の読書などを通して、読書の楽しさを味わえる生徒が増えた。授業では、場面毎の登場人物の心情の変化や、表現などを押さえて読み取ることができるようにする。</p> <p>●説明文については、「文末決定性」「段落の構成」「接続語」など、読解のポイントに着目して読み取ることができるようにする。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●市の正答率78.8に対して5.7ポイント下回っている。 ●内容を詳細にみていくと、「文法・語句に関する知識」では「用言の活用」「類義語・対義語」「敬語」では平均して7.1ポイント下回っている。 ○「漢字を読む」では4問中2問、「漢字を書く」では4問中1問、「歴史的仮名遣い」では1.3ポイント市の正答率を上回った。 	<p>●今まで、「漢字」「文法」「敬語」「歴史的仮名遣い」に関しては、教科書、プリント、単元テストを行って改善を目指してきた結果、「歴史的仮名遣い」に関しては大幅に市の平均を下回っていた4月の全国学力・学習状況調査の結果を改善することができた。</p> <p>●今後は、小テストなどもこまめに行い、定着するまで粘り強く指導していく。</p>

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	61.7	65.4	52.7
	歴史的分野	65.7	71.3	64.1
	公民的分野	64.0	71.8	68.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	57.9	64.9	53.5
	資料活用の技能	64.5	68.0	57.3
	社会的事象についての知識・理解	64.6	70.6	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

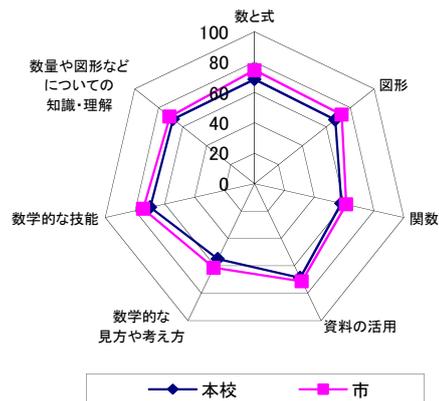
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> ●市の正答率65.4%に対して3.7ポイント下回っている。 ○世界の地理に関しては位置関係やそれぞれの国の特色を押さえられている。 ●日本の地理について、特に扇状地などの地形や、発電所の分布は整理できていない状況である。 	<p>地理的分野は3学年になると忘れてしまう部分が多い。定着を図るためにも、世界の農業、工業、漁業、日本の農業、工業、漁業など、カテゴリーを分けて整理させる指導を授業のまとめで取り入れる。また、常に地図を使った授業を行い、日本地図、世界地図の全体像をつかませる。</p>
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> ●市の正答率71.3%に対して5.6ポイント下回っている。 ○古代の分野は理解できている。特に邪馬台国についてや、古墳時代の様子を資料から把握することができている。 ●近代の複雑な移り変わり、特に倒幕から明治維新にかけての西南戦争や自由民権運動の中心人物などが整理できていない状況がある。 	<p>比較的範囲のせまい古代分野などは復習を通して整理できているが、人物、法律、事件等が多くなる近代に近づくにつれて苦手意識が出てきている。単元の最初に年表を生徒に渡し、今どの年代を学習しているのか常に把握させながら、日本の歴史の全体像をつかませ、それぞれの出来事の原因、結果の理解を深めるために、資料活用やグループでの話し合いの時間を取り入れなければならない。</p>
公民的分野	<ul style="list-style-type: none"> ●市の正答率71.8%に対して7.8パーセント下回っている。 ○憲法改正の手続きに関しては良く理解できている。 ●議院内閣制など国会と内閣の細かい仕組みの部分は整理できていない状況である。 	<p>自分の生活と関連があり、関心が高まる分野であるが基礎基本の定着を図る必要がある。国会や内閣の仕組みを理解させるためにも、国会、内閣の役割はワークシート等で押さえさせ、実際に国会で話し合われている題材を準備し、グループワークを通して生徒が考ながら学習できる授業をしなければならない。</p>

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	68.7	74.7	72.4
	図形	67.4	72.7	62.3
	関数	58.2	61.3	52.1
	資料の活用	68.7	71.3	55.6
観点別	数学的な見方や考え方	55.0	61.4	45.2
	数学的な技能	69.9	74.6	69.7
	数量や図形などについての知識・理解	68.0	70.8	61.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

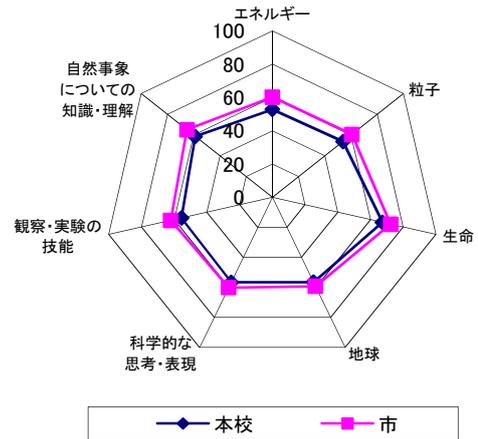
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○式を計算する問題では、すべての問題で正答率が85%を上回っている。特に分配法則を使う問題では、正答率が92%だった。</p> <p>○自然数を選ぶ問題は、市平均を7.7%上回っている。</p> <p>●乗法公式を用いた因数分解を行う問題では、市平均を10.8%下回っている。</p>	<p>・今後も継続して、基本的な計算問題を繰り返し取り組ませることで、内容の定着を図る。</p> <p>・かがやきルームやT・Tの指導体制を活用し、生徒の苦手意識の改善を図る。</p> <p>・乗法公式や因数分解の改善のため、授業で前時の計算プリントなど繰り返し取り組ませる。</p>
図形	<p>○平面図形・空間図形・図形の性質と証明の問題では、市の平均とほぼ同等の結果となっている。</p> <p>●平行四辺形になるための条件を選択する問題では、正答率が市の平均よりも11.3%下回っている。</p>	<p>・2年生で学習する三角形の合同証明の復習を取り入れる。</p> <p>・「相似な図形」についても一度復習し、相似条件や等しいところに印を付けるなどの基礎的な内容の確認を行っていく。</p> <p>・平行四辺形になるための条件を定着させるため、平行四辺形の性質などの定理を確実に理解させるとともに、応用力をつけさせる証明問題にも取り組ませる。</p>
関数	<p>○比例を表す表から、比例の式を表す問題では正答率が85%を上回っており、市平均を4.3%上回っている。</p> <p>●2乗に比例する関数において、グラフ上にある正方形の辺の長さを求める問題の正答率が3.6%下回っている。</p>	<p>・比例・反比例、一次関数、2乗に比例する関数の復習を行い、一般式の表し方の復習を行っていく。また、表と式とグラフの関係をも一度復習して、習熟を図る。</p> <p>・2乗に比例する関数の定着に向けて、グラフのかき方について復習する。グループ活動や話し合い活動など、学習形態を工夫しながら発展的な問題にも取り組ませる。</p>
資料の活用	<p>○度数分布表から、階級の相対度数を求める問題は、正答率が市の平均よりも1.8%上回っていた。また、確率の基本問題は市の平均とほぼ同じ正答率だった。</p> <p>●平均値の求め方の正答率が市の平均よりも11.6%下回っていた。</p>	<p>・資料の活用における代表値についての確認を行う。</p> <p>・確率についての復習を行い、3年の最後の単元となる標本調査にスムーズに進めるよう指導にあたる。</p> <p>・平均値の求め方についても一度確認させ、正負の数を利用した平均値を求める方法についても定着させる。数学だけでなく、理科の実験など他教科との連携を図りながら指導にあたる。</p>

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	52.9	60.2	57.6
	粒子	53.9	60.6	55.1
	生命	67.3	72.3	63.6
	地球	56.6	59.3	50.4
観点別	科学的な思考・表現	56.6	60.2	57.3
	観察・実験の技能	55.6	62.1	57.5
	自然事象についての知識・理解	58.8	65.2	57.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

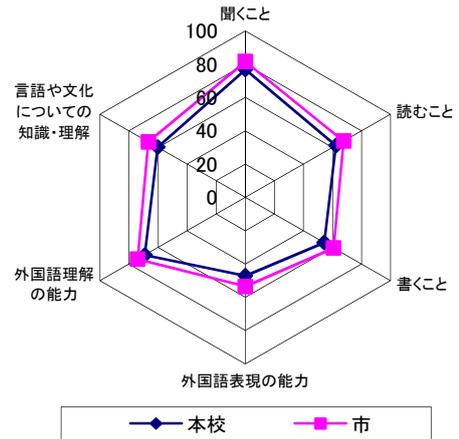
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	●市の正答率60.2%に対して7.3%下回っている。参考値と比較しても4.7%低い。特に低い単元が電流と磁界である。	<ul style="list-style-type: none"> ・電流と磁界では、実験内容は理解はしているが、コイルを大きく動かしたり、向きを変えるには、どのような方法があるのか生徒自身で仮説をたて、実験を進める。また、実験を行う前に観察のポイントなども指導して、学びを得やすいように工夫する。 ・電流と磁界に関しては、授業で発問を多く取り入れて各自の仮説を話し合わせたり、重要語句に関しては小テストを行ったりして定着するまで粘り強く指導する。
粒子	●市の正答率60.6%に対して6.7%下回っている。参考値と比較しても1.2%低い。 ○酸素と二酸化炭素の区別する方法に関しては良好であるが、気体の性質を説明する内容に課題がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果など理解はしているが、道具を使う理由を説明できていないので、記述させたり、発表させる内容を授業で多く取り入れる。 ・気体の性質に関しては、炭酸水や、ドライアイスなど身近なものを想起させながら理解を深めさせ、重要語句、化学式、反応式などに関しては、小テストを繰り返して定着を図る。
生命	●市の正答率72.3%に対して5%下回っているが、参考値と比較すると3.7%高い。 ○対照実験に関しては良好であるが、遺伝子の組み合わせについて内容に課題がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝の組み合わせなど物事を推測させる内容を苦手としているので、仮説を絵に描いたり、話し合ったりしながら、最終的には文章で表せるように指導していく。 ・重要語句に関しては、本時の初めに前時を想起させたり、小テストを繰り返したりして定着を図る。
地球	●市の正答率59.3%に対して2.7%下回っている。参考値と比較すると6.2%高い。 ○雲のでき方や水蒸気に関する問題では、飽和水蒸気量と湿度の関係については良好であるが、示相化石など説明と問われる内容については無回答率が多いのが課題である。	<ul style="list-style-type: none"> ・重要語句を説明させる問題で無回答が多いので、授業では前時の想起、学んだことを説明させる場面を多く設定したり、振り返りの活動に力を入れ、学びを定着させるようにする。 ・小テストでは、重要語句だけを答える内容でなく、説明させる問いを多くしたり、記述させる内容を多く取り入れる。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	76.8	81.7	75.3
	読むこと	62.3	67.7	62.9
	書くこと	54.2	60.7	52.8
観点別	外国語表現の能力	47.1	53.5	44.8
	外国語理解の能力	69.2	74.2	67.8
	言語や文化についての知識・理解	60.4	66.8	63.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>●市の正答率81.7%に対して4.9%下回っている。特に対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答える問題では市の平均より11.2%下回った。</p> <p>○絵を適切に表している英文を聞き取る問題は正答率が90%を上回っている。</p>	<p>・英語による授業やALTとの対話活動から、イントネーションや音の連結などを学び、英文を聞き取る力を付ける。絵にあったものを選ぶ聞き取りは得意だが、そうでない問題では特に必要な情報をメモするように指導していく。また、まとまった英文を聞かせ、内容の要点を聞き取るような活動を取り入れる。</p>
読むこと	<p>●市の正答率67.7%に対して5.4%下回っている。</p> <p>Look＋形容詞の語形・語法理解の問題では市の平均より9.8%下回った。</p> <p>○対話の流れとグラフから、適切な発言を判断する問題は良好である。</p>	<p>・授業の中で既習事項の単語や文法を繰り返し復習できる機会を設定する。また、対話文に多く触れさせたり、興味のある内容の文を読んだり、友達が書いた作文を読んだり、まとまった文を読む機会を増やすことで、教科書の文中の指示語を明確にしたり、文の大まかな内容を把握する活動を多く取り入れる</p>
書くこと	<p>●市の正答率60.7%に対して6.5%下回っている。</p> <p>特に、対話の流れに合った英文を書くことが苦手である。</p>	<p>・基本文や、それを書くために必要な単語や重要表現が定着していない。単語テストや単元テストなど書く活動を授業だけにとどまらず、家庭学習の課題として取り組ませるといった継続的な指導を行う。また、場面に応じた英作文が書けるように、文法の語形語法に加え、使用場面を意識させる課題を設定する。特に、対話の流れを感じられるよう、3文以上の英作文練習を定期的に行い、表現力の向上を目指す。</p>